

C'est BURKINA!!

ブルキナファソレポート vol.4 

「学校」

ブルキナファソの開発課題の大きな一つが教育の改善。

学校、教員不足を始め、解決すべき問題は多くあります。

ブルキナファソの初等教育総就学率、成人識字率は近隣の国々と比較しても低く、多くの国民が十分な教育を受けていないという状況にあります。



例えば、ひとクラスの生徒数が 100 人を超えるクラスは珍しくありません。また、たくさんの女生徒が学校に通うようになったのもここ最近だと言います。それでも、10 人以上兄弟がいることも珍しくなく、金銭的な理由から学校に行けるのは優先的にお兄ちゃん、男の子となってしまいます。ここでは、学校に行けるといのはとても幸せなことです。

授業を覗いてみると、日本の学校とは違った光景ばかりです。まず、授業はフランス語で行われます。子どもたちは家庭でそれぞれの民族の言葉を使います。しかし学校ではフランス語。普段使っていない言語で算数や理科も習わなければいけません。もし、私たちが小学校 1 年生から英語で授業を受けなくてはならなかったら…。とても大変です。そのため、ここでは時間割の多くがフランス語の授業に割り当てられています。低学年では、ノートの代わりにミニ黒板を使って授業を受けます。アルファベットの練習も計算も、書いては消し、書いては消し…繰り返し使える自分専用の黒板です。

授業が終わり夜になると街灯の下で勉強する子どもたちをよく目にします。村落部では家庭に電気の通っていない子どもたちがほとんど。夕食後自主的に集まって勉強をしています。そして、休日には大好きなサッカー。各地で小学校対抗サッカー大会が毎年開催されています。



岡崎市から頂いた色鉛筆を使いカディオゴ県クブリ群の小中学校を巡廻し、絵画教室を行っています。画材も簡単には手に入りません。そして、絵を描く機会さえ多くないこの国では子どもたちの絵画レベルは高くありません。でも、自由に色とりどりの色鉛筆で絵を描く楽しさを子どもたちは知っています。絵は子どもたちを笑顔にする魔法を持っています。

この場を借りて改めてお礼を申し上げます。